

道連ニュース

2024年2月号 No.206

北海道生活協同組合連合会

〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目1-3

こくみん共済coop北海道会館内

TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605

URL: <http://www.doren.coop>

2023年度 第4回理事会報告

1月18日(木)ポールスター札幌にて小松理事(さっぽろ高齢者福祉生協)を議長に選出し、開催致しました。冒頭、中島会長の開会挨拶ののち、以下の事項について、提案があり、承認されました。

【議決事項】

1. 道連会費の件
2. 北海道医療生協、上川学校生協の会費減免申請の件
3. 2024年度業務委託の件
4. 2023年度役員報酬の個別明細に関する件
5. 2024年度道連予算編成第1次(案)の件
6. 2024年度道連総会開催及び予定議案の件
7. 2024年度年間スケジュールの件
8. 2024年度北海道大学講座開催費用拠出の件
9. 『令和6年能登半島地震』災害支援募金への対応の件

【審議事項】

1. 2023年度活動のまとめと2024年度活動計画(案)及び予算(案)について

2. LPガス問題に関する取り組みについて
3. 協同組合ネット北海道の2023年度活動まとめと、2024年度活動計画(案)について
4. ユニセフ・ガザ緊急募金の取り組みについて

【報告事項】

1. 一般活動経過報告
2. 2023年度 第3回理事会議事録
3. 2023年度 第3四半期決算報告
4. 2023年度上期監査報告
5. 11月7日(火)灯油意見交換会、12月19日(火)保健福祉部要請報告の件
6. こども食堂北海道ネットワーク活動報告
7. ほっかいどう若者応援★学生PJ活動報告
8. 北海道からの通知及び友好団体・協賛・後援の件
9. 日生協北海道・東北地連報告

また、理事会終了後、理事・監事懇談会を開催し、話題提供として、「コープさっぽろ医療連携事業」について、コープさっぽろ管理本部医療連携事業部長の小濱様よりご報告を受けた後、質疑応答や各会員生協の当面する課題の交流、意見交換が和やかに行われました。

1年で
1800ヶ所
増!

全国の子ども食堂数推移 9131ヶ所へ増勢中!

こども食堂北海道ネットワーク事務局長 松本

前月ニュースで道内に於ける子ども食堂数(320)を報告させて頂きましたが本号では全国の特徴的なポイントを報告させて頂きながら、会員生協の皆様からの引き続きご支援、協働をお願いさせていただきます。

1. 個所数ベスト10

1	東京都	1009ヶ所
2	大阪府	757ヶ所
3	兵庫県	521ヶ所
4	神奈川県	484ヶ所
5	埼玉県	409ヶ所
6	愛知県	404ヶ所
7	福岡県	342ヶ所
8	北海道	318ヶ所
9	沖縄県	316ヶ所
10	千葉県	291ヶ所

を取り巻く環境や歴史・風土の違いもあろうかと考えております。しかし現実的にこの数年2000ヶ所前後の増勢が続いており基調として道内でも増え続けていくものと推察しております。

全国的にはこの1年で1800ヶ所のこども食堂が増えております。小学校数約20000校に対して約45%の割合で活動している実態を視る事ができます。都市部に集中する状況はこの数年変化ありません。多い少ないで評価はできません。

県ごと、地域毎に「子ども」



2. 「子ども真ん中社会!」への多様な契機へ

こども食堂北海道ネットワークへの応援企業様増勢の実態も折に触れて報告して参りましたが2023年度まとめでは約100ヶ所を超える応援団へと到達する見込みです。コロナの3年間も順調に増勢してきました。道生協連様はじめ協同組合ネット北海道に結集する各組織様からの地域への発信がその原動力になっております。深刻な問題を抱えている子ども達からそうでない子ども達も含めて多世代が地域で交流し合える居場所の一つとして今後も子ども食堂・地域食堂はその存在価値を高めていくものと考えております。よってたかって!おせっかい!を頂ければと存じます。今年は道内各地域での横の連携を深掘りしていく計画を立てておりますので益々の多様、多面的な協力・協働をお願い申し上げます。



ほっかいどう若者応援★学生プロジェクト活動報告

○2023年度の活動報告書を作成しました

この学生プロジェクトは、各大学の関係部局の皆様にご協力をいただき2023年1月に発足、コロナ禍での様々な制限によるアルバイトや、部活・サークルへの影響で、人とのコミュニケーション不足という大学生の課題と、同じくコロナ禍でのボランティア不足に苦慮していることも食堂の運営支援を目的とし、9大学50名（北海道大、天使大、北翔大、北星学園大、道教育大、道医療大、札幌国際大、武蔵女子短大、北海学園大）の学生で、活動を進めてまいりました。この1年間の活動をパンフレットにまとめ、学生募集にご協力いただいた大学関係部局の皆様、活動支援等にご協力いただきました企業様、団体様にお礼を兼ね活動報告をさせていただきました。



学生メンバーの声 ～活動を振り返って

A.Sさん 天使大学2年



「子どもたちから元気をもらいながら、楽しく活動をさせてもらっています。子どもたちと一緒に母さん方が来られることもあるのですが、私の話をすごく楽しそうに聞いてくださって。ここは母さん方が少しほっとし

たり、リフレッシュしたりする場でもあるんだと。今ではどうしたらみんなにとって居心地のいい空間になるか、考えながら活動するようになりました」

R.Iさん 北星大学2年



「この活動をする前は子ども食堂について、暗くて、閉鎖的な場所、という先入観を持っていました。でも、全然そんなことはなくて、すごくアットホームな場所。元気よく、あいさつをしながら入ってきて、私の顔を見て『今日いるんだ。やった！うれしい！』なんて声をかけてくれる。彼らにとっての居場所であるだけでなく、私自身にとっての場所でもあると感じています」。

「この活動をする前は子ども食堂について、暗くて、閉鎖的な場所、という先入観を持っていました。でも、全然そんなことはなくて、すごくアットホームな場所。元気よく、あいさつをしながら入ってきて、私の顔を見て『今日いるんだ。やった！うれしい！』なんて声をかけてくれる。彼らにとっての居場所であるだけでなく、私自身にとっての場所でもあると感じています」。

J.Cさん 北海道大学修士2年



「私は交流サポートの一環として中国語講座を担当しています。中国語で「你好(ニーハオ:こんにちは)」「再見(ザイチェン:さようなら)」などの簡単なあいさつを教えてあげると次に来た時に自分から中国語であいさつを

してくれます。そんな時は、かわいくて、うれしくて、抱きしめてあげたくりますね。ほんの小さな出来事かもしれませんが、その一言から交流の架け橋が始まってくれたらと期待しています」

M.Aさん 北星学園大学1年



学生プロジェクトに参加し、NPO ボラギャングさんのもとで活動させていただく中で、子どもと関わること、初対面の人と話すことへの抵抗感がなくなりました。子ども食堂では今まで知らなかった身近にある困り事を解決

しようとしていると感じ、参加する前よりも周りへ目を向けようと思うようになりました。ここでの活動は周りの人から刺激を受けて自分自身も頑張ろうと思える活動になっています。

S.Yさん 北星学園大学2年



子ども食堂の知識が全然ありませんでしたが、プロジェクトに参加したことによって子ども食堂運営者のお話を聞くことができたり、食堂に来ることも

だけでなく、保護者や地域の方、一緒に活動する大学生との交流の場が沢山あったことによってコミュニケーション能力も向上したと実感します。このプロジェクトに参加していたからこそ貴重な体験も沢山でき、1年を振り返って、自分にとって様々な点で成長できたと実感します。

S.Cさん 北海道教育大学4年



高校生の頃から子ども食堂の活動に魅力を感じ、「学生でもなにかしたい!」と思っていました。子どもや保護者さんはもちろん、ボランティアにとっても居心地がいい場所になるように活動

しています。このプロジェクトでは子ども食堂だけではなく、様々な学生と繋がることができ、非常に有意義な学生生活を送ることができています。

S.Nさん 北海道教育大学4年



活動を通して、子どもから大人まで様々な世代の方々と関わることで、新型コロナウイルスの影響で減ってしまっていた、人と人との繋がりの大切さを改めて実感しています。学生

同士で意見を出し合いながら考えた企画が形となり、子どもたちが楽しんでる姿を見ると、とても嬉しい気持ちになります。学生ならではの視点を活かして、子ども食堂のより良い運営のためにできることを考えながら活動しています。

K.Aさん 北海道大学 獣医学院 博士2年



大学院生として参加できる日が限られていたが、皆さまのおかげでとても楽しいボランティア活動ができました。イベントに参加するだけでなく、自分の意見もシェアしながら、イベントの準備と活動を行うことは全部とてもいい経験になりました。子供たちと遊んだり、様々な人と話したりするので自分自身も成長したことを感じます。

大学院生として参加できる日が限られていたが、皆さまのおかげでとても楽しいボランティア活動ができました。イベントに参加するだけでなく、自分の意見もシェアしながら、イベントの準備と活動を行うことは全部とてもいい経験になりました。子供たちと遊んだり、様々な人と話したりするので自分自身も成長したことを感じます。